

基本情報

- ◆ 認定年度: 2019(令和元)年
- ◆ 設置時期: 2019(令和元)年9月
- ◆ 実施部局: 化学研究所
- ◆ 相手方機関: 復旦大学 (中国)
- ◆ 設置タイプ: アウトバウンド型
- ◆ 設置目的: 化学分野最先端研究の共同実施、化学分野人材交流の促進
- ◆ 設置場所: 復旦大学 (中国・上海)
- ◆ 活動内容: 化学分野の最先端研究を推進し、国際共同研究・共同利用の拡大や現地研究機関との連携強化を図る。



活動による大学全体への波及効果

- 国際共同利用・共同研究拠点としての活動推進
- 研究資源・設備の共有による研究の効率化
- 化学分野でのトップ学生リクルート

【2024年度】

- 復旦大学から13名の教職員を京都大学へ招聘し、京都大学化学研究所にて「第4回Shanghai-Kyoto Chemistry Forum」を開催した。両大学から各10名の教員が新材料、エネルギー変換、ケミカルバイオロジー分野の最新の研究成果について講演した。
- 上海交通大学の学部生(特進)3名をiCeMSにて1か月受け入れ。

活動概要

◆ 先進的な化学の共同研究(多孔性材料などの新材料、エネルギー変換、ケミカルバイオロジーなど)

◆ 復旦大学・上海交通大学・上海科技大学の最先端研究機器、京大の機器を相互共同利用

◆ 中国科学院国家化合物ライブラリー(200万化合物)共同利用

◆ 京都大学の反転講義活用、中国トップ校からの留学生誘致

◆ 客員教授招へいによる研究費獲得や若手研究者交流の促進

*外部資金への積極的な応募
*進出企業との共同研究



自走運営の資金確保へ



既存の化学研究所オフィス

復旦大 張江校区



(後)兼任准教授(Lu復旦大学薬学院教授)

(左)専任秘書



2024年11月Shanghai-Kyoto Chemistry Forum開催(京都)

2024年度の主な活動実績

① The 4th Shanghai-Kyoto Chemistry Forum 2024の開催

令和6年11月まで、中国渡航に関して日本人に対するビザ免除措置が停止され、ビザの申請には時間と手続きを要した。そのため、令和6年度は京都から上海への渡航を少なくし、上海から京都への渡航を中心とした活動を行った。復旦大学から13名の教職員を京都大学へ招聘し、京都大学化学研究所にて「第4回Shanghai-Kyoto Chemistry Forum」を開催した。復旦大学の教授9名、化学研究所の教授・准教授10名が新材料、エネルギー変換、ケミカルバイオロジー分野の最新の研究成果や学術的な洞察について講演した。発表内容に対する活発な質疑応答があり、さらに分野・領域を超えた共同研究課題についての意見交換も行われた。

② 次世代育成プログラム

- ・ 上海交通大学から選抜された学部生（特進）3名を令和6年度に京都大学iCeMSにて受け入れ、1か月のインターンシップを行った。今後も提携して継続することとなった。
- ・ 上海の同済大学と京都大学が2024年8月27日・28日にTongji-iCeMS International Graduate Symposiumを開催した。主に同済大学とiCeMSの若手研究者や学生が次世代材料について議論した。

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/event/9888/>

